

足立英彦「ラートブルフ・テーゼ（実証主義は法律家を無防備にする）について」

300 頁本文

「「ラートブルフ・テーゼ」にの批判対象は、このような悪法への法服従まで許容してしまうかつての自らの法理論に対する反省も含まれていたと考えるべきであろう。」